

東北民放クラブだより

みそおにぎりと玉子湯の旅 旅・グルメ同好会

庄司 精一（O X）

旅・グルメ同好会の秋の企画は温泉と郷土料理を楽しむ日帰りバスツアー。冬の足音が聞こえ始めた11月19日、9人の参加者を乗せたツアーバスは仙台を出発。福島に向けて東北道を南下です。大型バス・マイクロバスと乗り継いで辿り着いたのは土湯温泉に向かう道を少し山側に入った「隠れ家レストラン・ゆず沢の茶屋」。



「隠れ家レストラン・ゆず沢の茶屋」の前で

お座敷でのランチは大きなゆず味噌の焼きおにぎりがメインの味噌の焼きおにぎりがメインの「ゆず御膳」。おにぎりの他、3種類の田楽、煮物、玉コン、とん汁。和菓子のデザート付きです。

「豪華ランチ」で満腹になった会員を乗せたバスは山道を登って奥州三大高湯の一つ、高湯温泉の「玉子湯」に到着。玉子湯の由来は白濁色の源泉の臭いがゆで卵に似ているのと、湯に浸かると肌が卵の様に滑らかになることから。会員は岩風呂や足湯など8つある湯舟を思い思いに「めぐり湯」ランチが早めでお酒が進まなかつた先輩方、湯上りの表情が「ランチとお風呂は順番が逆だよな」と言っているよう。少しだけ未練が残ったバスツアーでした。

年3回の麻雀大会に・麻雀同好会

大山 敦司（TBC）

新年早々中国から新型ウィルスが日本に上陸。麻雀のように感染拡大をしなければ良いのだが？昔の麻雀はたばこの煙の中でのゲームだったが今は昔と違い健康的で親睦交流が麻雀の主体となっている。同じ趣味を通して語り合う麻

雀同好会は一九九〇年に設立、今年30周年を迎える。昨年11月の麻雀大会で大会の回数をもっと増やしての声が多く、年3回にするという事になった。

4か月おきに年3回（3・7・11月）。1回目は3月で、皆さん楽しみにしている様子。麻雀は運7割・実力3割のゲーム。誰でも優勝するチャンスがある。仲間を作りたい「あなた」、昔麻雀をやったことがある「あなた」、認知症にだけはなりたくない「あなた」、会員を募集しております。



昨年11月の例会

囲碁同好会だより

今井 雄二（TBC）

東北地区の囲碁同好会の会員は、



昨年の全国親善大会

岩手、秋田、宮城、で総数24名。仙台地区では毎月第一・第三土曜日に例会と称し、基会所に会員が集まり対局をしている。通年の成績7割以上（これはかなりの勝率）で昇段としているが、ここで問題なのは、成績が悪くても降段はないので段位がインフレになることだ。そのため外部との対局では二段階降格で対局をしている。また、毎年初めには合宿と称して昨年の全国親善大会でも会場となった秋保温泉に泊まり、囲碁、お酒、温泉を堪能している。

また、年2回の河北新報囲碁部との交流戦も行っており、3月で8回目を迎えた。

囲碁はそれほどお金もかからず、脳の活性化には最適な王道の趣味。皆さんのご入会を待っている。